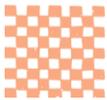


学内企業就職セミナーに参加しました



一人ひとりに寄り添っていたい

栄養士が働く場所といえは、病院や学校、保育所などが多いのだと思っていました。就職先も、そういった施設になるのだろうかと考えていましたが、参加してみて、スポーツ施設やアミューズメント施設でも食事の提供を行っている企業さんが印象に残りました。今までの概念が少し変わったからです。患者さんや生徒さんに給食を作るだけではなく、お客様が楽しむために訪れたアミューズメントパークで、テーマに沿った食事を作るのも面白そうだなと思い、栄養士としてそういった関わり方もあるのだなと視野が広がりました。また、スポーツ施設での食事提供も非常に興味を持ちました。また、「食」から日本の未来を支えますをコーポレートスローガンに掲げ、日本の民間企業では初めて刑事施設の給食も作っているということを知り、とても興味深いと思いました。食事提供するだけではなく、社会復帰の手伝いをして社会貢献しているところも素晴らしいと思いました。「最前線でお客様に寄り添い、一人ひとりに合わせた食事を提供したい」ということで、セントラルキッチンを持たず、全て現場で食事を作っていることにも共感が持てました。まさにお客様のことを一番に考えているからこそだなということも、ひしひしと感じました。一人ひとりに寄り添った食事提供ができる栄養士になりたいと深く考えさせられた企業説明会でした。



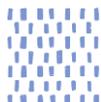
実際に知れた

各企業が給食を提供している場所、各企業の強み、どのような業務を行うのか、入社後の研修について、内々定までの流れなど各企業とても細かく説明してくださいました。求める人材像について、栄養士になるための今すべき準備についても説明してくださいました。分野、エリアごとの研修を行っており、学びの場がとても充実している印象を受けました。エリアごとに学ぶ地域活動と、専門分野で知識を高める専門部会があり、日々自己研鑽に励みながら働ける魅力があると感じました。栄養士研修の他に、管理栄養士資格取得研修というものもあることがとても魅力的だと感じました。管理栄養士を取得したい人にとって、会社側からのバックアップはとても心強いと感じました。受託先が多い企業はため選択肢に幅があることも魅力的だなと思いました。



将来にワクワクした

栄養士を募集している委託企業さんでは、おもに保育園・幼稚園、学生・社員食堂、病院、高齢者施設がおもであること、スポーツ関連施設や、飲食店でも委託先があるとのことでした。説明を聞いたうえで思うことは、栄養士・管理栄養士の先輩や歳の近い先輩がいる病院や高齢者施設といった環境の中で社会人1年目を過ごしてみたいということです。たくさんのご経験ある先輩方がいる職場で仕事のノウハウを学べるということは、今後のキャリア形成を考えると、心強い職場環境だと思いました。高齢者施設ではイベントを開催している委託先がほとんどだったので、イベントの構成を考え、食事は何にするか、見た目を鮮やかにするにはどうするか、私が想像していた以上に楽しそうやってみたい!と思いました。保育園・幼稚園は、自分が働いたとき、食べる量が少ないからどうしたら食べてくれるか、食べたことのない食材を食べさせるためにどう調理するかなど考えるとわくわくします。学内企業セミナーで複数社の説明会に参加したからこそ、栄養士の仕事は調理・献立作成以外にもたくさんのやりがいがあると再確認でき、就活に対する熱が高まりました。栄養士として食事を多くの対象者の方に提供する夢を叶えたいです。



やっぱり栄養士

その企業にしかない強みや管理栄養士の資格取得に向けたサポートの仕方、産休・育休への取り組み方、実績、求める人物像などを話してくださいました。セミナーの中で企業さんに質問をしたところ、ホームページやパンフレットでは知ることの出来なかったことを教えてくださいました。各企業の説明やパンフレットを見比べて、自分が働きたい企業先を決める第一歩となりました。たくさんお話くださったなかでも一番印象に残っている言葉が「『感謝の気持ちと謙虚な姿勢』で仕事に取り組むこと。誰もが思いやりの気持ちを持って互いに協力すること。」というフレーズです。感謝の気持ちや謙虚な姿勢というものは、意識していなければ忘れてしまい、ただ淡々と仕事をこなすだけになってしまうのだろうか深く考えさせられました。このフレーズをモットーに日々頑張っているとおっしゃっていたので、感心すると同時にこの話をしてくださった企業さんに興味を持ちました。企業さんの説明を聞いて、初めは一般企業のような所でも働いてみたいという気持ちはあったのですが、やはり栄養士の資格を生かせる仕事で活躍したいと感じました。たくさん企業研究を行ったうえで私自身の考えに合った企業で働きたいと強く思いました。